

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

## 覆砂漁場で大量発生したアサリ稚貝の保護手法の検討(松尾地先)

県北広域本部水産課・永田 大生

### 【背景・目的・目標（指標）】

管内のアサリ資源は低水準で推移しており、その資源回復のためには産卵母貝を保護し、浮遊幼生の数を増やしながら資源量の底上げを図ることが必要である。そこで、熊本市松尾町地先において、アサリ稚貝を網袋に入れて保護・育成する「大野方式」で育成したアサリを活用し、被覆網による母貝場造成の実証試験を行った。なお、今年度は、被覆網のアサリ保護効果を把握することを目標とした。

### 【普及の内容・特徴】

月日：令和2年(2020年)10月14日から令和3年(2021年)3月16日までの間の7日間

場所：熊本市西区松尾地先（令和元年(2019年)施工の県営覆砂漁場）

方法：①「大野方式」で約4ヶ月間保護・育成した平均殻長21.3mmのアサリを用いた。

②目合6mmのナイロン製メッシュの網を用いて2m×2mの範囲で覆った被覆網区を2区、覆っていない対照区を2区設け、①のアサリをほぼ同量になるよう放流した。なお、被覆網区は、波浪の影響を軽減させるため、四隅を杭で固定したほか、周辺に掘った約10cm、幅20cmの溝内に被覆網の縁辺部を入れ込み漁場の砂で埋設した。

③被覆網区及び対照区の4～16ヶ所を10cm×10cm(0.01m<sup>2</sup>)方形枠によりアサリを採取し、7mm角目のステンレスでふるって計数した。

結果：令和3年(2021年)1月の調査時に被覆網の破損を確認したため、被覆網区の2区のうち破損の酷かった1区は試験を中止した。なお、試験を継続した1区における令和3年(2021年)3月調査時の被覆網下の残留率は56.7%であった。一方、対照区の残留率は0%であり、放流したすべてのアサリ稚貝が消失していた。また、被覆網下のアサリの平均殻長は28.3mmであり、放流時と比較して1.3倍の成長であった。

### 【成果・活用】

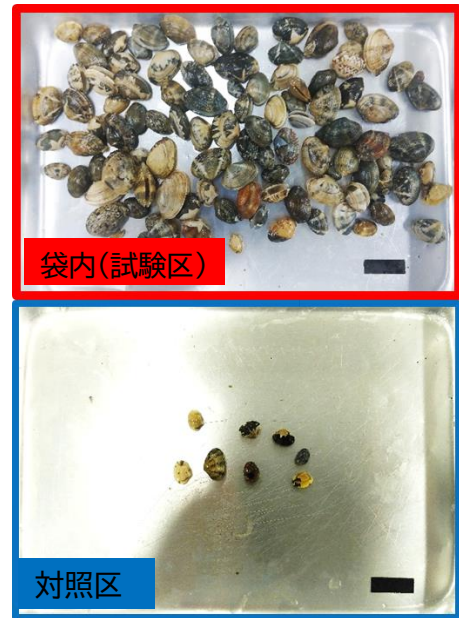
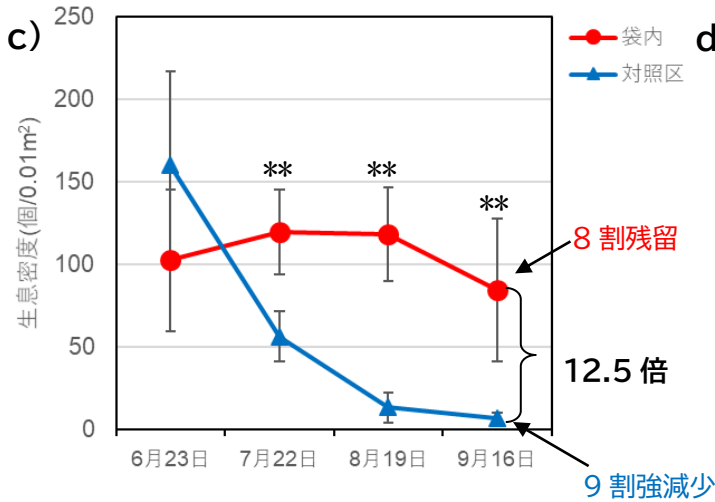
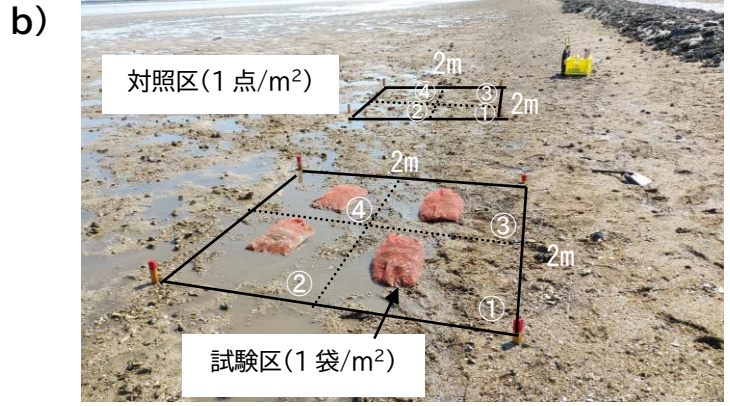
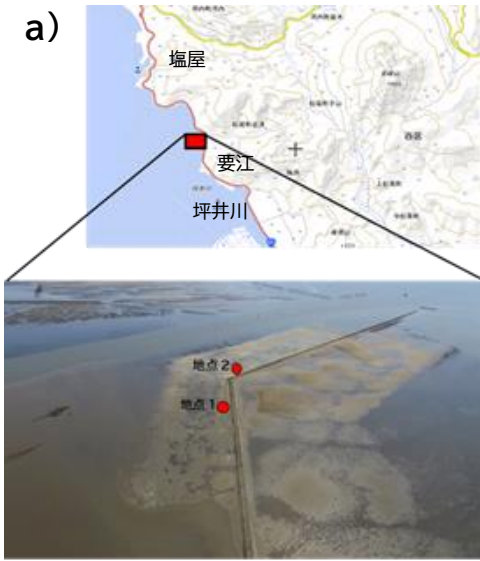
実証試験により、被覆網の高いアサリ保護効果が確認できた。しかし、波浪による被覆網の破損が見られたため、設置場所の選定には検討が必要である。

次年度は、実証試験の結果をアサリ採貝漁業者へ報告するとともに、被覆網によるアサリ母貝場造成の取組みを管内に推進していく。

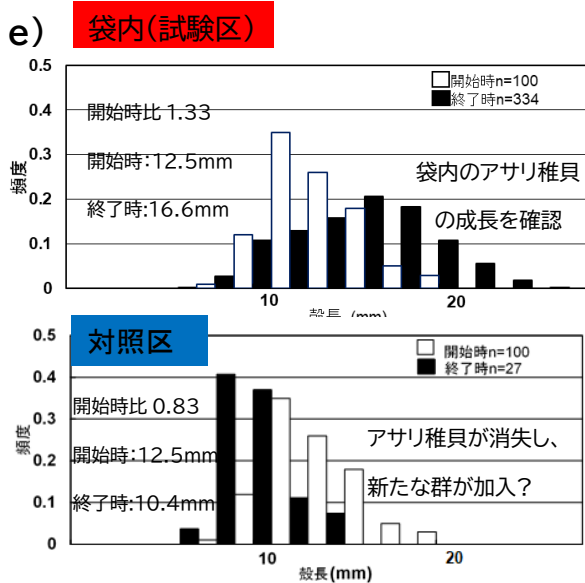
### 【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが取組に改善を要する等の課題も見られた(51%～75%)

(様式)



種粉袋の保護効果(対照区との比較)  
・残留率 12.5倍  
・殻長の成長 1.6倍



a) 試験実施場所、b) 試験区の設置状況 (地点 1)、c) 生息密度の推移 (地点 2) (同月の対照区との間に有意な差があるかは、Student' s t test により求めた。\*\* P<0.01)、d) 試験終了時のアサリ稚貝 (0.01m<sup>2</sup> の方形枠内) (地点 2)、e) 地点 2 の試験開始および終了時の殻長組成、f) 当課から地元への説明